

令和 8 年度一関市農業技術開発センター運営委員会会議録

- 1 会 議 名 令和 8 年度一関市農業技術開発センター運営委員会
- 2 開催日時 令和 8 年 5 月 26 日（火）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
- 3 開催場所 北部農業技術開発センター会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 三浦賢一郎委員（委員長）、佐々木真人委員、高橋昭彦委員、
佐藤寿樹委員、後藤忠行委員、佐藤正弘委員、佐々木修喜委員、
千葉文彦委員、小島幸喜委員、千葉昭弘委員
※欠席者 藤野秀一委員、千葉健司委員、足利智枝委員、葛西信昭委員
 - (2) 事務局 小野寺啓農林部長、
千葉清農林部次長兼生産流通課長兼農業技術開発センター所長、
佐藤裕生産流通課主事兼農業技術開発センター主事、
千葉広南部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
米倉清徳南部農業技術開発センター農業技術員、
小崎龍一北部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
佐藤克徳北部農業技術開発センター農業技術員、
大和田俊介南部農業技術開発センター主任主事

5 議 題

- (1) 令和 7 年度事業の報告について
- (2) 令和 8 年度事業の計画について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍 聴 者 なし

8 挨 拶

小野寺啓農林部長

本日は今年度取り組んでいる主要事業の取組状況と、今後の取組について御提案させていただきます。

委員の皆様それぞれの立場から率直な意見をお聞かせいただき、当センターのより良い施設運営に繋げてまいりたいと思うので、慎重審議をよろしく願います。

9 審議内容

- (1) 令和 7 年度事業の報告について

事務局より資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 令和 7 年度の土壌分析点数は 800 点と記載されているが、分析にかかる年間

計画はあるのか。

事務局 11月から1月末までの約3か月間で分析を行っている。分析点数の具体的な計画はない。

委員 土壌分析を依頼して、検査結果が出るまで期間はどれくらいかかるのか。

事務局 処方箋作成まで含めると約1か月はかかる。

委員 分析点数内訳を見るとピーマン部会からの依頼割合が多く読み取れる。

土壌分析に関して、部会全体として取り組む方針としているのか、又は、一部の生産者に限定して分析を行っているのかお尋ねする。

委員 部会員へ土壌分析の案内をしている。

希望する部会のみ10月末頃までに、JAに土壌を持ち込み、まとめている。所有している圃場が多い部会員もいるので、1会員で複数点持ち込む場合もある。

委員 水稻に関して、事務局の説明の中で、肥料高騰の今、食味の維持・向上を図るため土壌分析による結果を施肥管理に活用してほしいとの話があったが、このことについてはどうか。

委員 金色の風を始めた頃は分析していたが、継続が出来なかった。

食味が数字で分かりやすくなった現在、自分たちでも施肥設計をやっているが、数値が安定しないので、今年度はぜひ土壌分析を依頼したい。

委員 一関農業技術開発センターの分析結果を受けて、一関農業改良普及センターにおいて処方箋を作成する流れとなっているが、ほかの団体からの依頼が冬に集中するため、処方箋の送付が遅れてしまう場合がある。

また、昨年度の組織改編により、一関農業改良普及センターの畜産担当が奥州農業改良普及センターに移ったことから、酪農など畜産関係の処方箋作成は奥州農業改良普及センターで行うことになっている。

このことから、年度当初に各農業改良普及センター所長宛てに処方箋作成の依頼をお願いしたい。

委員 土壌分析については、農家も期待して待っているので、継続して取り組んでいただきたい。

分析手数料について、これまで部会ごとに取りまとめて支払いしていたが、今年度から野菜部会として会計を一本化したため、対応についてよろしくお願いします。

委員 小菊の有望品種試験栽培について、試験終了後はデータのみの提供となるのか、又は、有望品種を選定して部会員に対して推奨していくのか。

また、令和7年度8月咲きの試験10品種のうち2品種が除外された理由について伺う。

事務局 有望品種の選定について、一関農業改良普及センターも含めた中で、小菊部会へ還元していくかについては、今年度冬季までに検討させていただきたい。

試験結果では有望な品種であっても、実際に栽培してみて、この品種では不良だということもある。

生育調整剤で微調整は可能だが、その年の天候によって開花期は必然的に変わるので、その部分を含めて有望品種選定を検討させていただきたい。

また、2品種が試験除外された理由については、JAから入手した中に、矮化障害の品種が含まれていたためである。

矮化発生率は高くはないが、計測において欠格となるため、それらの品種のデータを計測しても特性を判断する数字が出せないことから、2品種については、計測しないこととして試験から除外したものである。

委員長 有機農業についてはどうか。

委員 一関地方有機農業推進協議会では、令和7年度に学校給食への有機米の提供を4回行っている。令和8年度は5回の実施を計画しているため、作付面積を増やしている。

有機農業を推進している自治体には、都会から若い人たちが移住してくる事例が全国的に増えてきている。

有機米だけではなく、有機野菜も学校給食に取り入れることで、有機農業の取組を都会の人たちに発信し、一関市に来てほしいと考えている。

また、教育委員会と生産者との懇談会を開催したいと考えている。

(2) 令和8年度事業の計画について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 化成肥料価格が高騰しており、地域内にある堆肥を活用することは非常に有効ではないか思っている。

家畜排せつ物は、苦情にも出るが、肥料になる。

家畜排せつ物を利用した堆肥を使おうといった場合、生産者側からの要望はや意見はあるか。

委員 鶏糞は肥料として十分使える。

牛糞堆肥は分解させるのに窒素肥料が多めに必要となる。

鶏糞と牛糞を合わせて使うと良い肥料であり、使い勝手が良い。

委員 有機農業での堆肥の活用は、時間をおいて発酵させれば問題なく活用できる。

委員 家畜堆肥は、重量があり散らすのが大変なため、手間がかかることから使いたくないという話を聞くが、その点はどうか。

委員 製品になったものであれば使い勝手は良い。長い時間土壌中に有機物が残るという点で、家畜堆肥を利用している。

散らすのは大変だが、微生物を混ぜて発酵させることでさらに良い土になる。

委員 一関地方有機農業実施計画で、取組面積の拡大等を目標に掲げているが現状はどうなっているのか。

事務局 一関地方有機農業実施計画に記載する面積については、水稻を想定しているが、明記していない。

一関地方有機農業推進協議会の構成員に有限会社かさい農産や公益社団法人藤沢農業振興公社が入っており、水稻以外で作付けしている品目もあるため、面積については計画を大幅に上回る数値となっている。

販売数量については把握していないが、目標に対してクリアしているものと捉えている。

学校給食への有機農産物の提供は、令和10年度まで5回取り組むこととなっているため、引き続きご協力をいただきたい。

委員 令和7年度に一関市を会場にオーガニックフェスタ2025が開催された。他の地域イベント等が開催される場合には参加する予定か。

委員 令和8年度は花巻市を会場にオーガニックフェスタを開催することが決まっており、一関地方有機農業推進協会も出店する予定である。

委員 地域おこし協力隊の募集について、就農フェア等でのPRを行うとのことだが、首都圏で行うのか、若しくは岩手県主催の就農フェスタを想定しているのか。

事務局 地域おこし協力隊員は令和8年2月末で退任されたため、令和8年度中に新たに募集したいと考えており、応募に当たってのPRを行っていきたいと考えている。

また、隊員の具体的な取組については、一関地方有機農業推進協議会と相談していききたい。

事務局 募集に関して、就農フェスタについては地域おこし協力隊をメインに集めるようなイベントもあることから、興味のある方と懇談したいと考えている。

委員 情報提供になるが岩手県では毎年度いわてグリーン農業アカデミーを開催している。

有機農業に限らず、環境にやさしい農業ということで講座を開いているので、

募集の機会には参考にしてほしい。

10 担 当 課 農林部農業技術開発センター